

松本養護学校基本方針検討懇談会

第1回発言要旨

1 期 日

○令和元年 6月6日(木) 13:30~15:30

2 内容の概要

○懇談会の開催

- ・ 中信地区の障がい児教育の拠点として、松本養護学校の今後のあり方を検討したい。
- ・ この懇談会では50年、100年先の教育を見据えた協議をしていきたい。

○地域の中の特別支援学校

【特別支援学校の意義】

- ・ 「障がいのある子どもたちにとって適切な学びの場は、特別支援学校なのか、地元の小中学校なのか」「インクルーシブな教育を進めることと、特別支援学校を充実させることをどう考えればよいのか」等について多角的な視点から考えていきたい。
- ・ 「特別支援学校が、なぜ地元の小中学校と別の学びの場である方がよいのか」を検討することが大切ではないか。

【地域との交流】

- ・ 毎年秋に、町会長15名程度で授業参観をさせてもらっているが、年々役員は交代してしまう。より日常的な交流の在り方を考えていくことが大切である。
- ・ 30年程前に、松本養護学校の生徒が自宅のりんご園に手伝いに来てくれたことがあったが、そういった交流ができるとうい。

【副学籍制度】

- ・ 松本市では特別支援学校を含め「全ての子が地域の学校に学籍がある」「地域の子を地域の学校でみたい」という考えで、副学籍制度の導入を検討している。

○高等部での教育課程

- ・ 木工班や陶芸班といったこれまでの作業種にこだわらず、新しい発想で新しい作業種や最新の設備を取り入れたり、他県の高等特別支援学校で取り組んでいるような活動を取り入れたりすることも検討したい。

○寄宿舎での生活

- ・ 寄宿舎と福祉事業所との連携の方向は考えられないか。

○中信地区特別支援学校再編整備の現状

- ・ 松本養護学校の児童生徒数は、当初の想定に近くなった。一方で、寿台養護学校の児童生徒数は増加して教室の不足が課題となっている。